

小米 B(01810)

【セクター】 スマートフォン&家電

【市場】 香港

【企業概要】

中国のスマートフォン大手で、市場シェアは世界3位（2021年）です。中国最大手だったファーウェイが2020年に米国の制裁で打撃を受けるなか、積極的な販促を行い、市場シェアを獲得しました。「スマホ×AIoT（AIとIoT）」を中核戦略に据え、スマートフォンと連携した家電の製造・販売も行っています。2021年3月にスマートEVへの進出を発表。部門売上高構成比（21.12期）はスマートフォンが63.6%、IoT・生活家電が25.9%、インターネット・サービスが8.6%、その他が1.9%です。

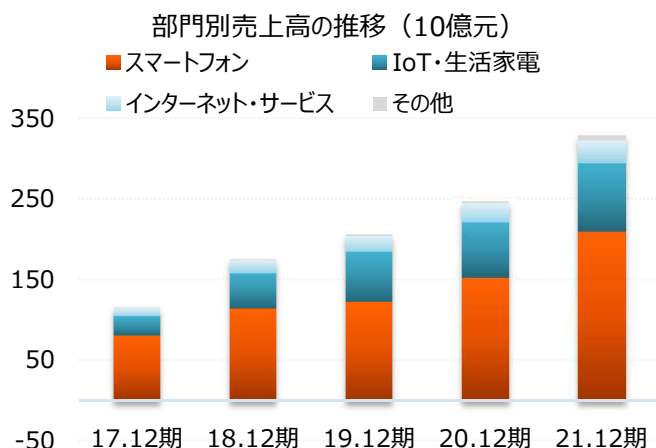
【業績】（単位：売上高、純利益は百万人民元、EPS、1株配当、BPSは人民元、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
20.12期	245,866	13,006	0.54	0.00	4.9	19.9	48.9
21.12期	328,309	19,339	0.78	0.00	6.7	14.8	46.9
22.12期（予）	312,101	12,422	0.49	0.00	5.9	7.8	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

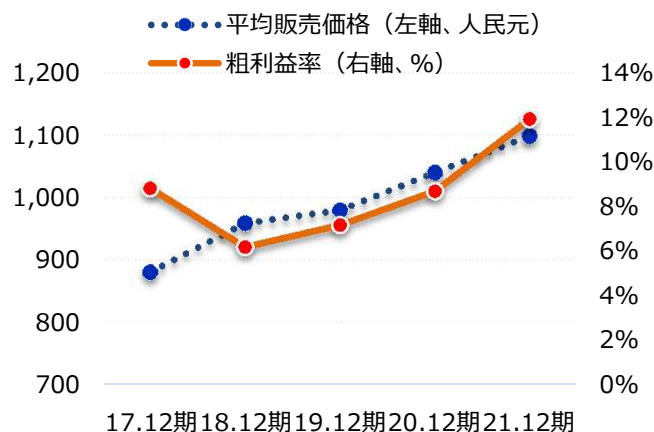
（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

【主要指標】



（出所）会社資料よりSBI証券作成

スマートフォンの平均販売価格とスマートフォン部門の粗利益率



（出所）会社資料よりSBI証券作成

【会社の見方】

「低価格&高スペック」が強みで、中低価格帯のスマホ市場でシェアを伸ばしてきました。2020年以降は、高価格帯市場でもシェアを獲得しています。22.12期1-3月期は中国の 안드로이드 高価格帯市場でシェア1位となりました。世界のスマホ市場では欧州やインド、ラテンアメリカなどでシェアが伸びています。スマートフォンと家電を連携させるIoT・生活家電は、2本目の収益の柱となっています。「スマホ×AIoT」を中核に、今後は新規事業のスマートEVやロボットにも研究開発投資を拡大する方針です。EVの量産は2024年上期に開始する計画です。量産前の先行投資は短期的に収益を圧迫する要因となりそうです。

【見通し・注目点】

4-6月期は売上高が前年同期比20%減、調整後純利益は同67%減でした。ただ、減収・減益幅は市場予想以下でした。スマートフォンの出荷台数が同26%減となり、業績を圧迫しました。中国のコロナ対策（行動制限）が店舗販売に影響し、海外市場はインフレ高進を受けた消費意欲の低下が需要鈍化につながりました。ただし、1-3月期に比べると1.5%増（世界スマートフォン出荷台数は8.0%減）でした。減益幅が減収幅を上回ったのは、販管費とEV向け研究開発費の増加によるものです。経営陣は、下期は海外市場のイベント（インドのディワリや欧州のブラックフライデー）で販促を強化する予定です。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります（信用取引、先物・オプション取引、外国為替保証金取引、取引所CFD（くりっく株365）では差し入れた保証金・証拠金（元本）を上回る損失が生じるおそれがあります）。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。